

博士課程

2020

授業科目〈シラバス〉

沖縄県立芸術大学大学院
芸術文化学研究科

授業科目〈シラバス〉について

この「2020 授業科目〈シラバス〉」は、令和2年度に大学院芸術文化科学研究科で開講される（一部休講科目を含む。）授業科目について、各担当教員から提出された授業科目〈シラバス〉をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、履修案内については、別冊「履修便覧」に記載しています。

1. 集中講義科目については、単位数・学期欄の（）内に表記されています。
2. 担当教員名欄には、科目の指導担当教員全員の氏名が記載されています。
3. 担当教員名欄の（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
4. 履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。

大学院芸術文化学研究科開設授業科目一覧表

科目コード	科目名	単位	学期	履修年次	授業区分	ページ
90112	芸術表現総合比較研究Ⅰ	2	通年	1・2	演習	1
90113	芸術表現総合比較研究Ⅱ	2	通年	2・3	演習	2
90228	比較美学研究A	2	後期	1・2	講義	3
90229	比較美学研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	4
90230	比較芸術学特殊研究A	2	前期	1・2	講義	5
90231	比較芸術学特殊研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	6
90242	日本芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	7
90243	日本芸術批評史研究B	2	後期(集中講義)	1・2	講義	8
90244	東洋芸術批評史研究A	2	前期	1・2	講義	9
90245	東洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	10
90234	西洋芸術批評史研究A	2	後期	1・2	講義	11
90235	西洋芸術批評史研究B	2	前期(集中講義)	1・2	講義	12
90216	民族工芸論研究	4	通年	1・2	講義	13
90217	映像論研究	2	前期(集中講義)	1・2	講義	14
90246	日本芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	15
90247	日本芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	16
90248	民族芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	17
90249	民族芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	18
90251	東洋芸術文化学研究A	2	前期	1・2	講義	19
90252	東洋芸術文化学研究B	2	後期	1・2	講義	20
90250	民族芸術学特論	2	後期(集中講義)	1・2	講義	21
90253	比較民俗学研究A	2	前期	1・2	講義	22
90254	比較民俗学研究B	2	後期	1・2	講義	24
90238	東洋工芸史研究	4	通年	1・2	講義	26
90220	西洋音楽史研究	4	通年	1・2	講義	27
90221	日本音楽史研究	4	通年	1・2	講義	28
90223	民族音楽学研究	4	通年	1・2	講義	29
90224	琉球音楽論研究	4	通年	1・2	講義	30
90225	民族舞踊学研究	4	通年	1・2	講義	31
90226	民俗芸能論研究	4	通年	1・2	講義	32
90227	琉球楽劇論研究	4	通年	1・2	講義	33
90239	楽曲分析研究	2	後期	1・2	講義	34
90240	アートマネジメント研究	2	通年	1・2	演習	35
90241	芸術学研究	2	通年	1・2	講義	36

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90249	民族芸術文化学研究B	2単位 後期	1・2	講義	鈴木 耕太

■テーマ 琉球文学作品の講読と解釈

■授業の概要

琉球文化を表現するものの中から「琉球文学芸能論」について基礎的に学習する。前期に引き続き、詞章解釈を通じて、琉球語の表現やその特性を理解するために、琉歌・組踊を中心とした琉球芸能文学の作品から、作品の背景にある人々の感情や、詠まれた（創作された）世界を捉え、一首・または一作品ごとに琉球語の読解、解釈、鑑賞を検討していく。後期は前期に行った解釈に加え、琉球舞踊や組踊、または祭祀の場で歌われる作品についても言及し、文献だけでなく、観劇やフィールドワークなども加え、深化した発表を行うことを目的とする。

なお、講読するおもしろさうし・琉歌・組踊・南島歌謡などのジャンルについては、受講生の専門分野を考慮し、受講生と協議の上決定する。

■到達目標

おもしろさうし・琉歌・組踊・南島歌謡など一つの作品を正確に解釈できるようになることを目指す。古典琉球語について、用例にあたり、その語が当該作品でどのような意味を担っているかを明らかに出来るようにする。作品一首の解釈・鑑賞へといたる道筋についてその方法を習得し、一首の鑑賞が出来るようになることを最終目標とする。

■授業計画・方法

第1回 琉球文学芸能論概説

第2回 琉球芸能史概説

第3回 作品鑑賞「琉球古典舞踊」（女踊・老人踊）

第4回 作品鑑賞「琉球古典舞踊」（二才踊・若衆踊）

第5回 作品鑑賞「組踊」朝薫五番より

第6回 作品鑑賞「組踊」「大川敵討」前半

第7回 作品鑑賞「組踊」「大川敵討」後半

第8回 テキスト講読「組踊」「大川敵討」前半

第9回 テキスト講読「組踊」「大川敵討」後半

第10回 発表と鑑賞「琉球古典舞踊」（女踊）より

第11回 発表と鑑賞「琉球古典舞踊」

（二才踊・若衆踊）より

第12回 発表と鑑賞「組踊」朝薫五番より

第13回 フィールドワーク（朝薫誕生の地、首里儀保・末吉宮）

第14回 フィールドワーク（万寿寺・浦添中頭方西街道、玉城朝薫の墓）

第15回 本講義のまとめ

※定期試験は実施しない。レポートを課す。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

履修にあたっては、「民俗芸術文化学研究A」のシラバスで提示した内容に加え、琉球舞踊・組踊・年中行事などの祭祀を実際に見聞することがのぞましい。毎回の講義に向けて、事前準備を欠かさないこと。

■成績評価の方法・基準

□方法 通常の授業発表（平常点50%）に加え、発表態度、発表レポート（50%）を元に評価を決定する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究科（博士課程）の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献（資料）等

□教科書 講義用レジюмеや資料を配布する。

□テキスト なし。

□参考文献

「民俗芸術文化学研究A」の参考文献の他に、池宮正治『琉球文学芸能論』、矢野輝雄『組踊への招待』『組踊を聴く』などを参考文献とする。